

平成25年9月27日

厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課虐待防止対策室 室長  
為石 摩利夫殿

大阪市東淀川区菅原 6-25-19-1210  
NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会  
代表 水井 雅子

## 要望書

「乳幼児揺さぶられ症候群予防啓発 DVD (赤ちゃんが泣きやまない:泣きへの理解と対処のために)」は素晴らしい企画と思います。その趣旨がきちんと伝わるために、DVD とその説明書の下記の点につき強く要望します。

1. 「赤ちゃんが泣いている時の対処法」で母親が哺乳びんで人工乳を飲ませるといふ映像は、**母親が直接授乳する映像に差し替える**か、人工乳を飲ませる映像の直前に直接授乳の映像を挿入してください。
2. 上記1の要望が不可能で現状のDVDを配布する際には、映像に「**母乳をあげているお母さんはそのまま母乳をあげてください**」と文字と音声を追加し注意を促してください。
3. 「DVD 活用ガイド(指導者向け)」には「この DVD にはミルクを飲ませましょうとありますが、これは(母乳でなく)人工乳を飲ませましょうという意味ではなく、**母乳育児中の方は母乳を飲ませるのがいちばんです**」と記載してください。

理由:

1. 母親が哺乳びんで人工乳を飲ませるといふ映像を見た母親・父親・家族が、赤ちゃんを泣き止ませるには母乳ではなく哺乳びんで人工乳を飲ませたほうが好ましいのだと誤解する危険性があるため。(実際にこのDVDを見た母親から「泣きやませるためには、母乳ではなく人工乳の方がいいのですか?」という質問があった。)
2. 医師、看護師、助産師、保健師などの保健医療従事者からは、(1)母乳育児中の母親が人工乳を与えることで赤ちゃんが乳房を吸う回数が減り母乳分泌が減少する、(2)赤ちゃんは母乳からしか得られない免疫などの恩恵を十分に受けられなくなる、さらに(3)母乳育児中の母親の育児不安をあおる恐れがあるなど、その危険性を指摘する意見が多数寄せられている。
3. UNICEF/WHO は、政府など権威ある機関は母乳育児を保護し推進し支援しなければならないと述べており\*、本邦でも厚生労働省が「健やか親子 21」の目標として母乳育児の推進を掲げている。政府機関から発信される情報の影響力は計り知れず甚大であり、今回のDVDの映像は母乳育児推進の動きを後退させる危険性がある。

脚注\* WHO/UNICEF『乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略』2002年

なお、この運動戦略でも明記されたWHOの『母乳代用品のマーケティングに関する国際規準(the International Code of Marketing of Breastmilk Substitutes\*)』の第4条2項には、「人工乳の使用に関する情報が含まれている教材には、文章であれ、視覚的・聴覚的なものであれ、母乳代用品(人工乳)の使用を理想化しかねない写真、絵、文章を使うべきではない」と書かれている。(母乳代用品のマーケティングに関する国際規準(日本訳全文))

[http://jalc-net.jp/International\\_code.pdf](http://jalc-net.jp/International_code.pdf)

以上